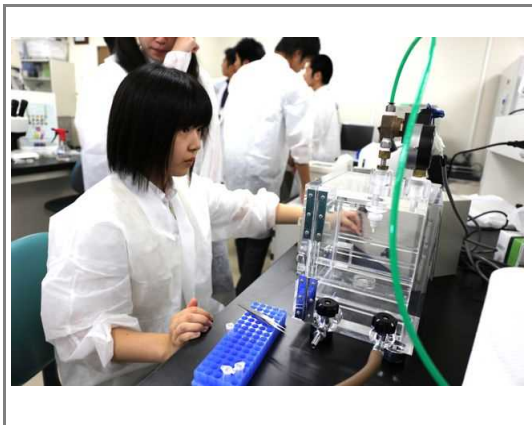


平成25年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)

実施報告書

HT25234 【プログラム名】植物の遺伝子組換え技術について学ぼう！



開催日：平成25年7月27日(土)-28日(日)
実施機関：宮崎大学
(実施場所) (フロンティア科学実験総合センター遺伝資源分野)
実施代表者：権藤 崇裕
(所属・職名) (フロンティア科学実験総合センター・助教)
受講生：高校生14名(27日(土))
高校生11名(28日(日))
関連 URL：

【実施内容】

・受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

本プログラムは、まる2日間のコースで高校生を対象に植物の遺伝子組換えについて理解することを目的に行った。ビデオを上映したり、実験材料について実際に触れたりすることで、想像していた以上に受講生が楽しく理解し、積極的に学ぼうとしている様子が見受けられた。

・当日のスケジュール

1日目

- 09:00 - 09:30 受付(宮崎大学フロンティア科学実験総合センター)
- 09:30 - 10:00 開講式(あいさつ、科研費の説明)
- 10:00 - 10:30 植物の遺伝子組換えについての講義
「遺伝子組換え技術の可能性と安全性」
- 10:30 - 10:40 休憩
- 10:40 - 12:00 「植物の遺伝子組換え技術について学ぼう」
 - ・ 実習の説明
 - ・ ビデオ鑑賞(NHK教育テレビ10min. ボックス「遺伝子を見る」)
- 12:00 - 13:00 昼食
- 13:00 - 16:00 実習①「オワンクラゲ発光遺伝子(GFP遺伝子)の導入」
- 16:00 - 16:30 まとめ・終了・解散

2日目

- 10:00 - 12:00 キャンパスツアー
 - ・ フロンティア科学実験総合センター
 - ・ 遺伝子組換え隔離温室
 - ・ 遺伝子組換え隔離圃場
- 12:00 - 13:00 昼食
- 13:00 - 15:00 実習②「オワンクラゲ発光遺伝子(GFP遺伝子)により発光した細胞の観察」
- 15:00 - 16:00 修了式
 - ・ アンケート記入
 - ・ 未来博士号の授与
 - ・ 記念撮影
- 16:00 終了・解散

・実施の様子



1日目。実験の説明の様子。ムービーを多用し、わかりやすく説明した。



遺伝子導入カラムの準備。一人につき2シャーレずつ準備した。



遺伝子導入実験の様子。遺伝子導入装置(パーティクルガン)を用いて導入している。



2日目。キャンパスツアーで隔離温室を見学した。



隔離圃場の見学の様子。遺伝子組換え作物の栽培について説明した。



未来博士号授与後の記念撮影。

・事務局との協力体制

財務部及び研究国際部が委託費の管理及び支出報告書の確認を行った。研究国際部研究推進課が日本学術振興会への連絡調整及び提出書類の確認を行った。参加申込には、管理を一元化するため、JSPSホームページ上でのWEB申し込みを活用した。

・広報活動

事前にポスターを作成し、宮崎市内の高校に郵送した。また、電話にて参加の是非を確認した。

・安全配慮

実習時には班分けを行い、受講生3~4名に対して一人の実験担当者を割り当て、常に指導できるよう配慮した。実験室内は飲食禁止、実験終了後は手を洗うなどの注意喚起を行った。また、万一の事故に備え、実験期間内において受講生を対象とした傷害保険に加入した。

・今後の発展性・課題

本プログラムの実施は今年度で5回目であり、実習までの様々な準備がスムーズに行うことができた。今年度は、宮崎市のイベントと重なり、参加人数が少なかったものの、新規に参加した高校もあり、来年度の参加に期待できる。参加高校も実施5年目でほぼ定着しているが、高校に直接電話するなど積極的に広報し、新規に高校を開拓することが必要である。

【実施分担者】

明石 良	農学部・教授
橋口 正嗣	農学部・助教
田中 秀典	農学部・助教
石垣 元気	農学部・研究員

【実施協力者】 9 名

【事務担当者】

山崎 勝也 研究国際部研究推進課研究推進係・係員